

【資料2－5 空母艦載機の着陸訓練について】

米海軍の空母艦載機のパイロットには、洋上の空母への着艦という高度な技量が要求されるため、陸上での着陸訓練（FCLP:Field Carrier Landing Practice）が課せられている。なかでも、夜間に行われるものを特に夜間連続離着陸訓練（NLP:Night Landing Practice）と呼ぶ。現在はFCLPのほとんどが硫黄島代替施設で実施されている。

FCLPでは、滑走路の一部を空母の飛行甲板に見立て、空母艦載機が離着陸を繰り返すという特殊性があり、訓練は集中的かつ長時間にわたり、比類のない激烈な騒音を発生させる。

また、FCLPの終了後にはCQ（Carrier Qualification）と呼ばれる空母への着艦資格訓練が実際の空母上で行われる。

